

<今回>224回目 2017年12月4(月)15時~18時 603号室

読書は9冊目「邪馬壹国の証明」 p37子供でも分かる謎 その2 より

<前回>223回目(17-11-20) 出席者8名

資料(17-11-20-1)前回のまとめ(清水)

-2)「天の原」の歌(清水)

-3)宋史日本年代記(清水)

## A 報告

欠席の連絡があった。高山氏は新潟のお父上が100歳の記念表彰に立ち会うため、久保さんは前日の稲荷山古墳や大前神社の旅行で足を痛めたため、下中村さんは母上を亡くされたためという。お悔やみ申し上げます。

懇親会5名 津多屋10252円(5・2000) -252円

B 資料 -2)阿倍仲麻呂の天の原の歌について亡き岩田氏と古田先生の論争の様子を含めて、清水なりの解釈に至った経過を報告した。天ヶ原は老岐北端の地名という発見と前提に立った時には天の原、春日、三笠の3点セットで「ふりさけみれば」に空間的、時間的要素を解釈に入れなくても臨場感あふれる離別の時の歌と解釈できる。

-3)平安時代の僧奝然が中国皇帝に提出した、日本の神代からの年代記である。古事記とも日本書紀の本文や一書群とも異なる年代が記されていた。神武以前の神代の分の一覧表をつけて、魅力点を紹介した。これは新唐書の日本伝の元にもなっている。

C 読書「邪馬壹国の証明」のp22 関東に大王あり その1 から。

1)埼玉稲荷山古墳の鉄剣銘の解説。銘文に表れた OO 大王とは近畿天皇家の名前ではない。関東内部で統一権力を行使していた関東圏の大王だ。

2)1979・11・10東京大学での史学会で井上光貞氏の公開記念講演会で古田説への反論がしめされた。かつて古田説に反論しないことに対して学者に責任を問っていた時勢に移り変わりの萌芽をみた。

3)天の原の地名3点セットのように、鉄剣銘の斯鬼の宮と栃木県藤岡町の大前神社その先の磯城宮と号すの石碑(明治12年建碑)の一致。雄略天皇はハツセの朝倉の宮である。

4)関東に大王あり、その2 宮号は天皇家の住居用に特定される以前に筑紫では今でも多い。高祖宮、住吉宮など。宮とあれば近畿天皇家と直接結びつけるのは危険である。古事記雄略記の堅魚問題(河内の大県主)。

5)安閑紀の武蔵国造位問題(笠原直使主と小杵の争い)に近畿天皇家が介入したのもずっと後の時代。関東に宮号使用の権力者なしと断定することは書紀の作者も驚倒させるもの。佐治天下の用語も OO 大王と OO 臣は同一朝廷内にいるものとみなさざるを得ないことを示す。

6)韓国陸行 道順は三國志全体の使用例に従って、倭人伝を読むというルールに尽きた。韓国水行は方4千里から8千里になってしまう。経る、歴るの使用例から帯方郡治から1500里水行、陸行5500里、計7千里である。

7)陳寿反対派の証言 後見の張華が失脚したときに三國志もあら捜しをされたがなんの変更もなく、正史となった。

8)子供でも分かる謎 その1 銅鐸が全く登場しない近畿はありえない。①卑弥呼は女王である。②さすがに女性を立て、神功紀に注で引用されている。倭国近畿説に立つ場合、銅鐸が全く登場しないのはおかしい。矛の国は筑紫、鏝型は全て筑紫である。近畿に矛は出土しない。

次回日程 17-12-25(月) 15時から18時 602会議室

18-1-8(月) 16時から18時 601会議室

1-29(月) 15時から18時 603会議室